

YASHICA



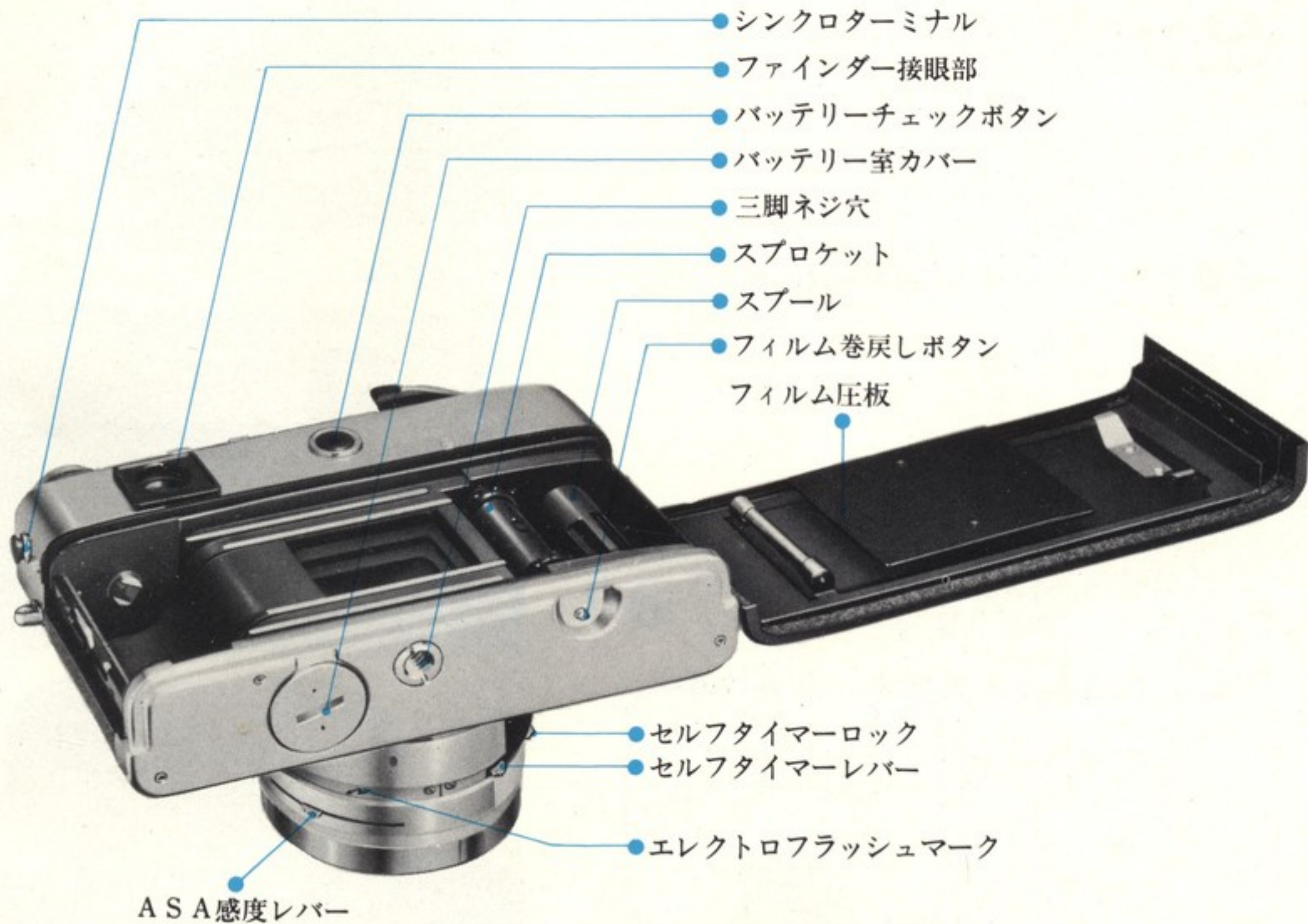
# ELECTRO 35 **GL**

ヤシカエレクトロ35GLの使い方



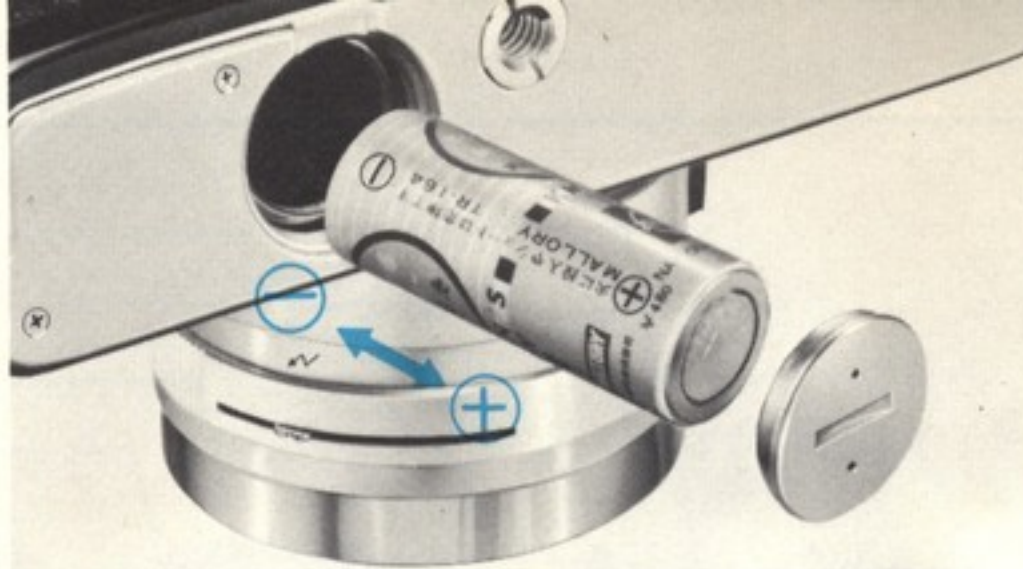
## ●各部の名称



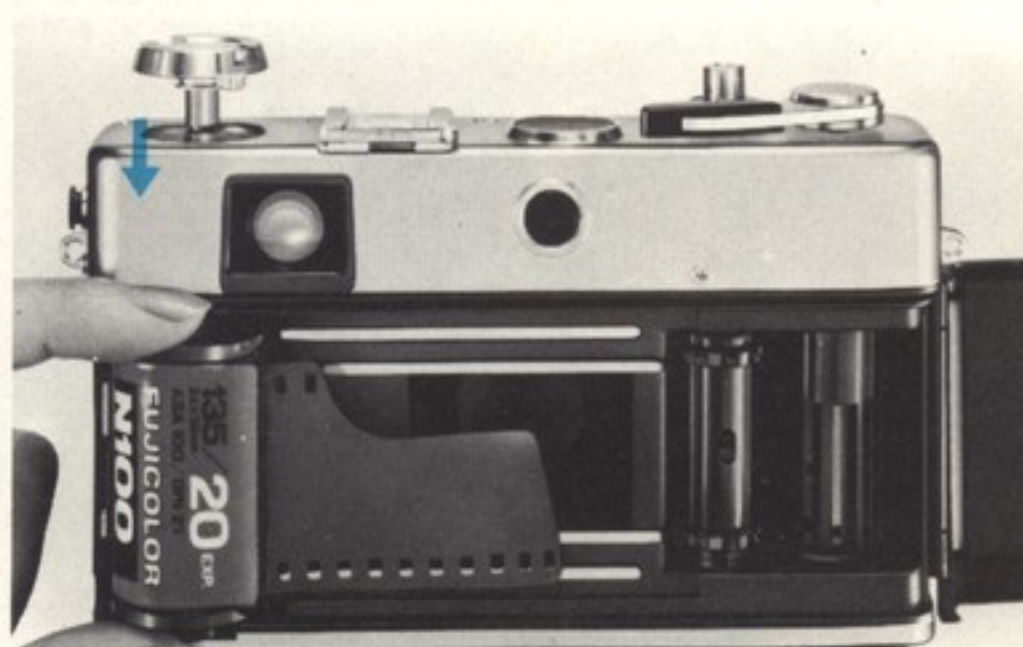


## ● 撮影の基本操作

1 電池を入れます (5 頁参照)



2 裏蓋を開いてフィルムを入れます  
(7 頁参照)



3 フィルムのASA感度を合わせます  
(9 頁参照)



これだけの操作で、カラーも自動的に写せます。

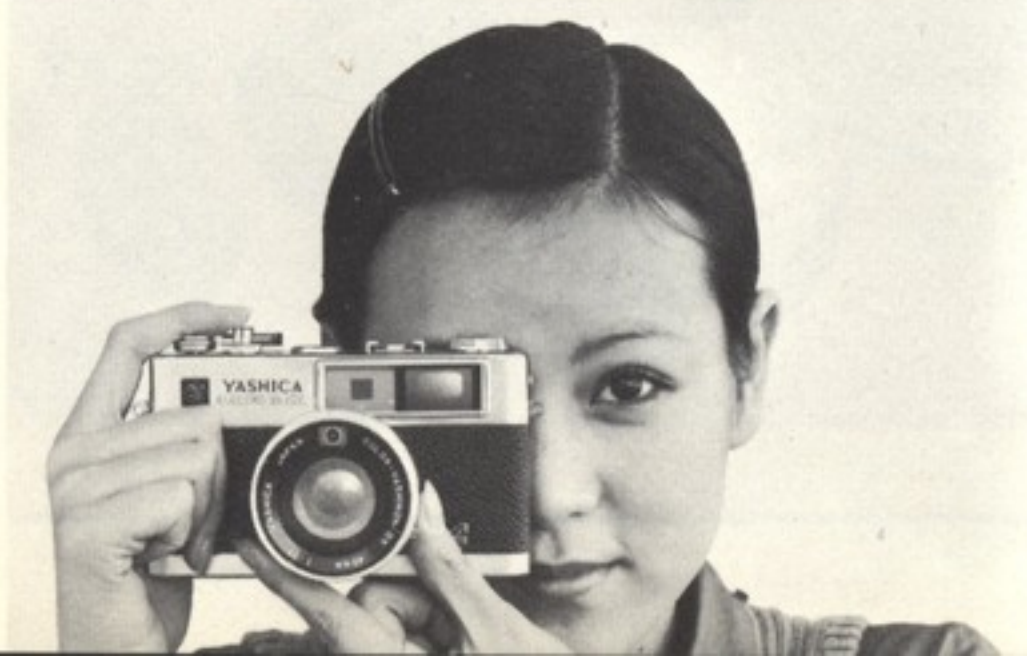
**4** 絞りリングのお天気マークを合わせます  
(13頁参照)

**5** フィルムを巻上げます

**6** ファインダー内でピントを合わせて  
シャッターを切ります (12頁参照)



ピントが合っていないとき      ピントが合っているとき



## ●電池の入れ方

### 〈使用電池〉

水銀電池5.6Vは下記の電池を使用してください。

国内 ナショナルHM-4N

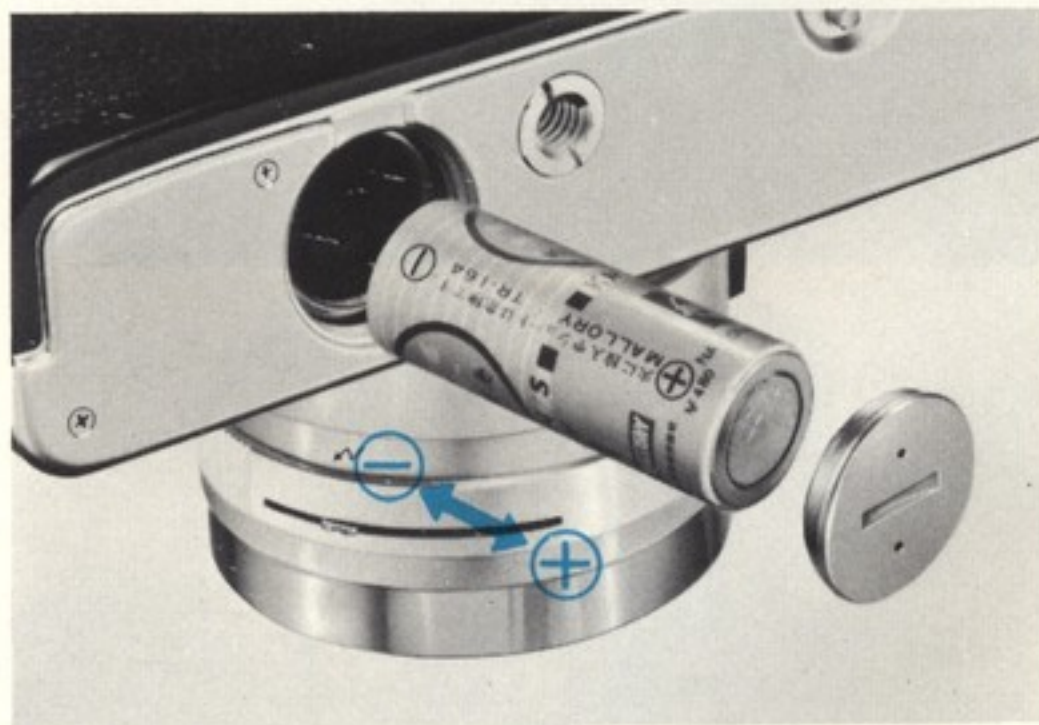
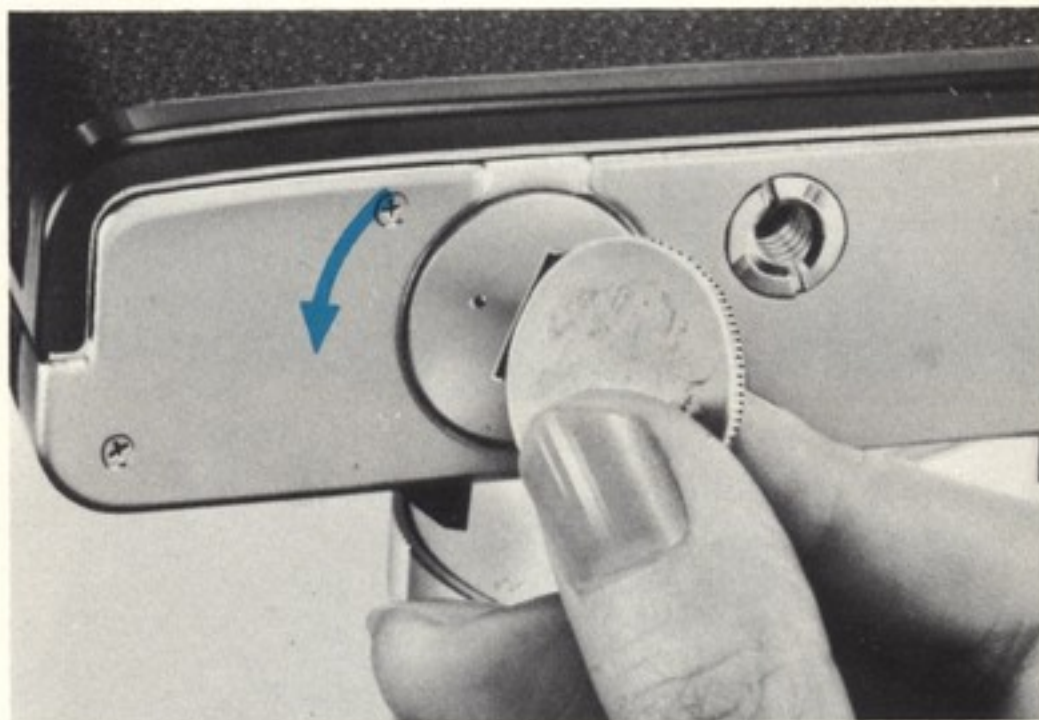
海外 マロリーPX32 エバレディE164

**1** 硬貨をつかって、カメラ底部のバッテリー室カバーを矢印方向に回してはずします。

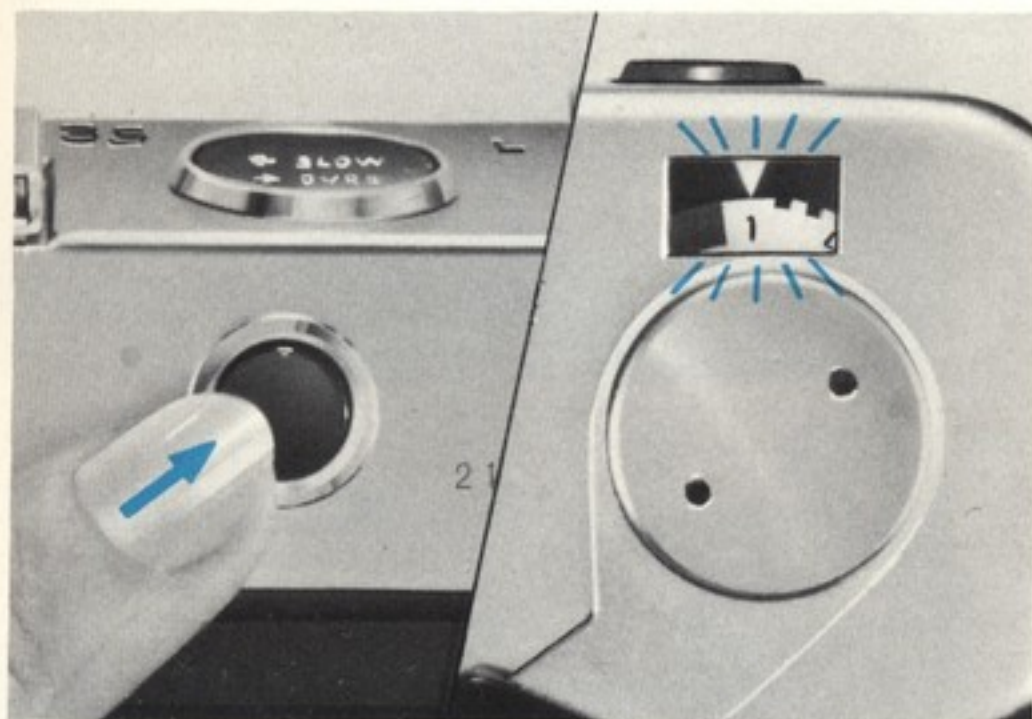
**2** 水銀電池を入れます。図解どおり⊕と⊖を正しく入れてください。

間違えるとランプはつきません。シャッターも正しく作動しません。

**3** 入れ終わったら、バッテリー室カバーをしっかりと締めます。



## ● バッテリーチェックのしかた



バッテリーチェックボタンを押し、フィルムカウンター（バッテリーチェックランプ）にランプがつけば電圧は正常です。ランプがつかないときは、新しい電池と交換してください。

電池の電圧が規定以下になると、正しい露出が得られませんから、電池を交換したとき、および撮影する前に、ときどきチェックを行なってください。

〈こんなときはバッテリーチェックランプはつきません〉

1. ⊕と⊖を入れ間違えたとき
2. 電池の両極がよごれているとき
3. 電池が消耗したとき
4. 電池が入っていないとき

### 〈電池の取扱上の注意〉

- ◎ 電池の両極を汗や油などでよごしたりしますと、接触不良をおこす原因となりますので、乾布でよく拭いてから使用してください。
- ◎ 長期間カメラを使用しないときは、電池をカメラから取りだしてください。
- ◎ 長期間の旅行などでは、予備の電池を準備しましょう。
- ◎ 使用済の電池を火中に捨てたり、分解したりするのは危険ですから十分注意してください。

### 水銀電池のお取替は、使用済の電池と交換でお願い致します。

カメラに使用している水銀電池は、完全シールをしておりますので、カメラをご使用中に電池の中身が外にでることはありませんが、身近な水銀汚染をなくすために、新しい水銀電池をお求めのときは、必ず使用済の水銀電池を持参し、カメラ店、または電気店にて現品と引換えでお求めください。

## ● フィルムの入れ方

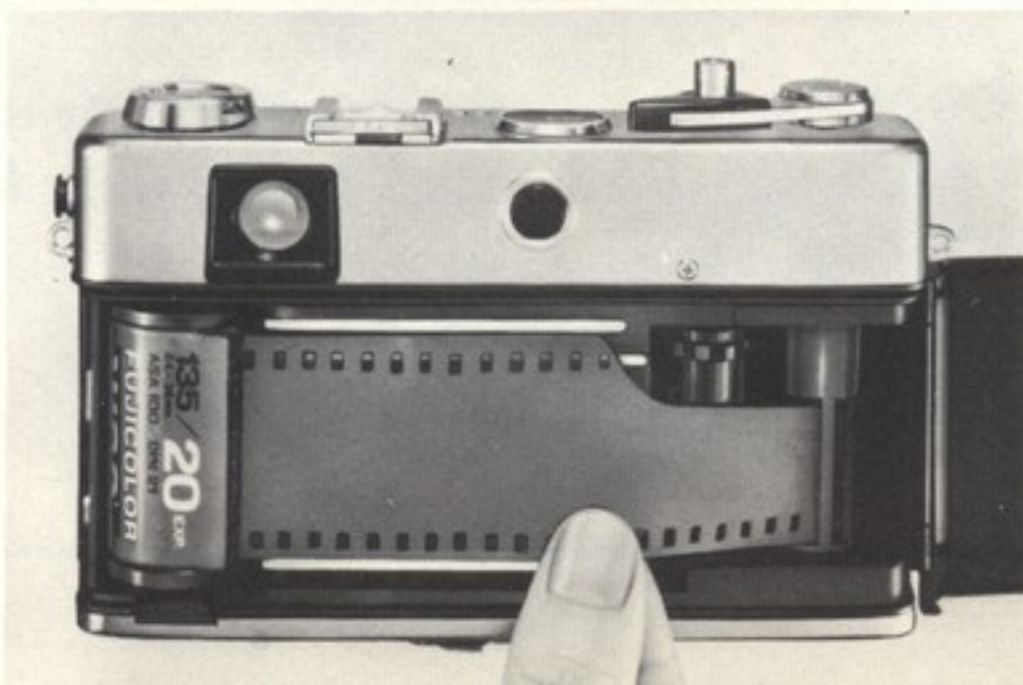
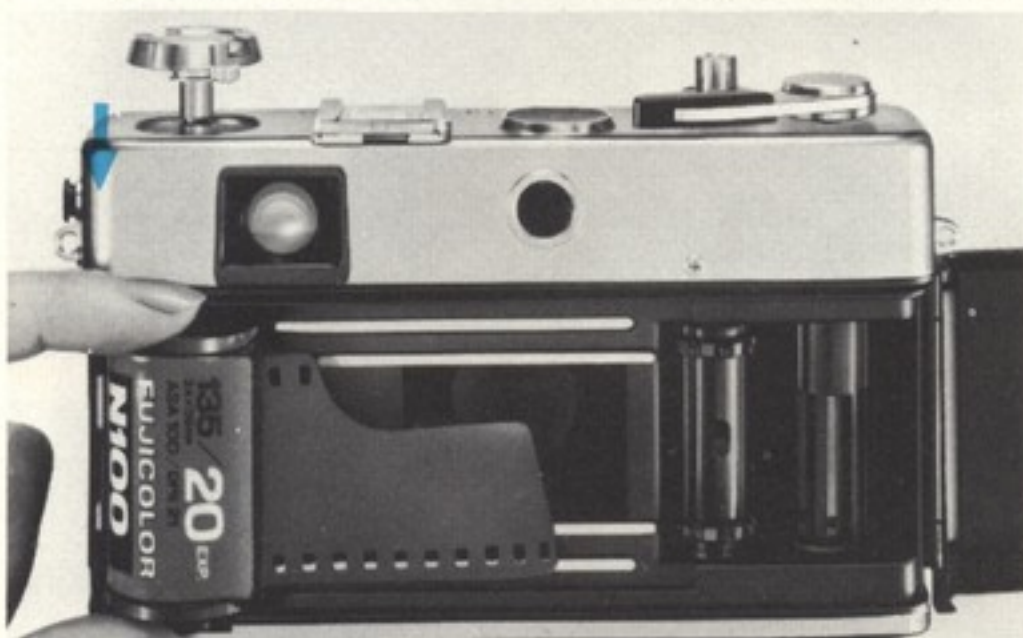
- 1 フィルム巻戻しノブをかるく引き上げ、さらに強く持ち上げると裏蓋が開きます。

裏蓋が開くと同時にフィルムカウンターは、自動的に復元し赤ゾーンに戻ります。

- 2 フィルム室にフィルムを入れ、巻戻しノブを元の位置に押し下げます。

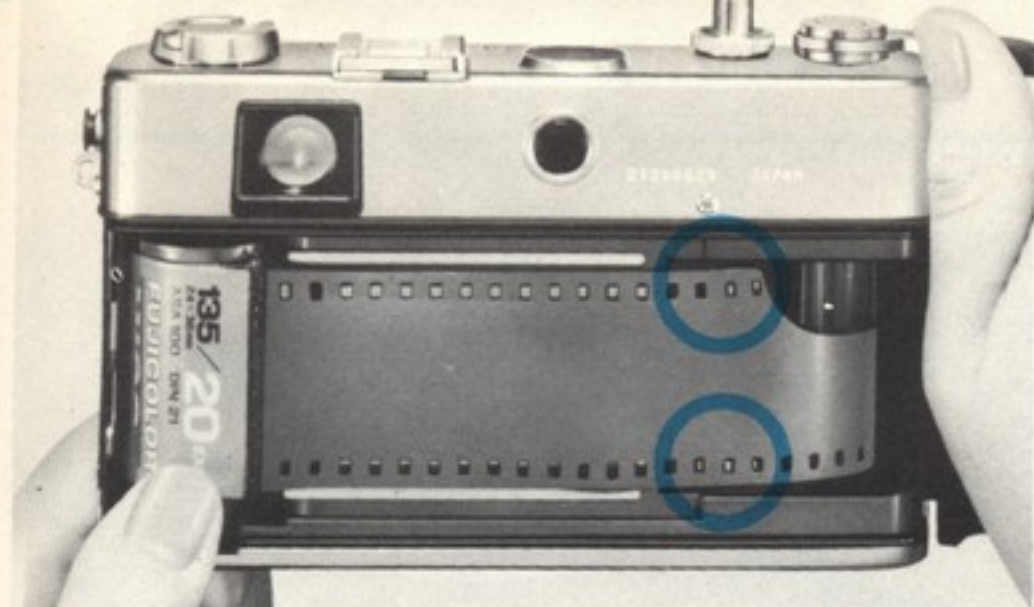
フィルムは、一般のパトローネ入り35ミリフィルム（12、20、36枚撮り3種類）を使います。

- 3 フィルムの先端を、巻取りスプールのみぞに十分に差し込んでください。  
どのみぞに差し込んでもかまいません。

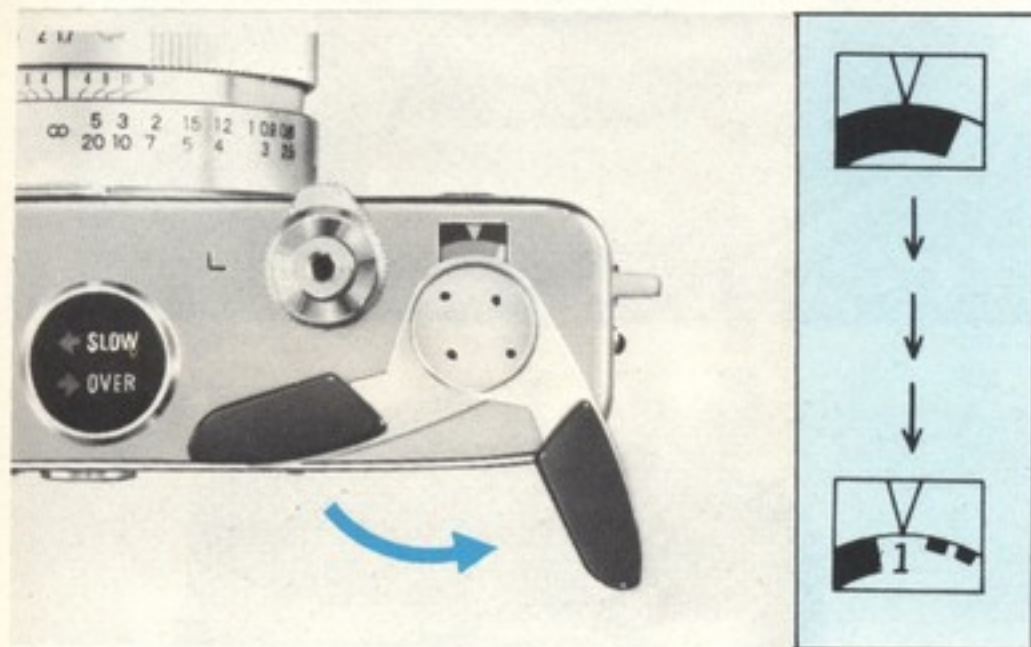




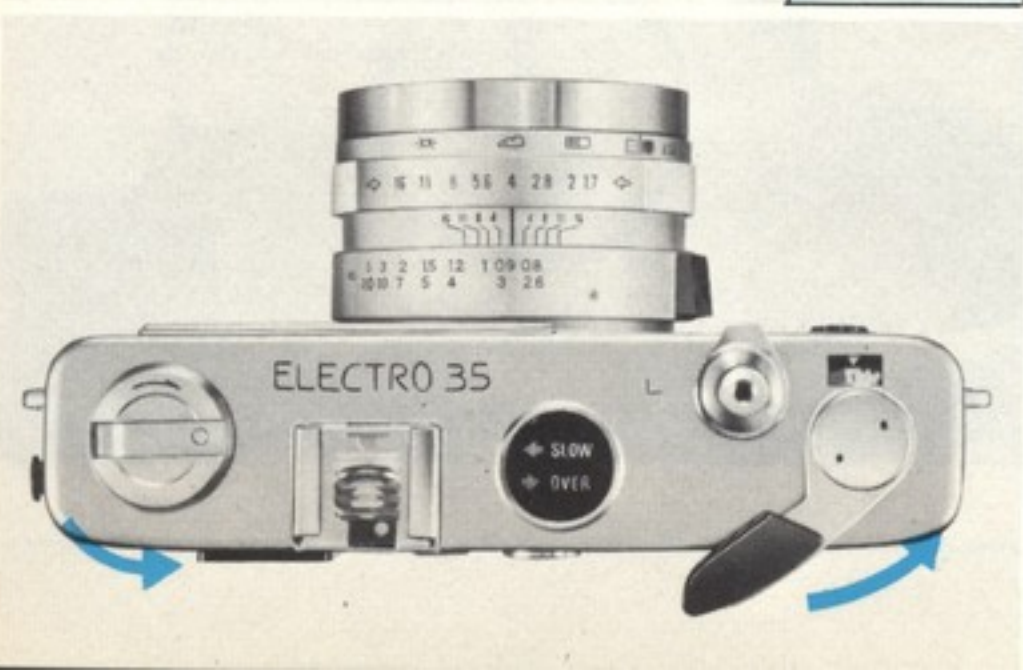
## フィルムを入れるときは直射日光をさけてください



**4** フィルム巻上げレバーを巻上げます。  
フィルムのパーフォレーション（フィルム送り穴）が、スプロケット（送り歯車）に正しくかみ合っているのを確認してから裏蓋を閉めてください。裏蓋を強く押すと完全にロックされます。



**5** フィルムカウンターが“1”になるまで、シャッターを切らずに連続的（3回）に巻上げることができます。  
フィルムカウンターに“1”がでると巻上げレバーが止まります。ここから撮影を始めてください。撮影枚数は、巻上げごとに自動的に表示されます。



**6** 撮影の途中でのフィルム送り確認は、巻上げレバーを巻いたとき、巻戻しノブが回ればフィルムは正しく送られています。  
フィルム巻上げレバーは、必ず止まるまで巻上げてください。

## ● ASA感度の合わせ方

フィルムを入れ終わったら、必ず使用するフィルムのASA感度を合わせます。

ASA感度レバーを押しながら動かして、ASA感度表示窓の中央（指標）にASA感度目盛を合わせます。

※これは適正露出を得るための数値ですから正しく合わせてください。

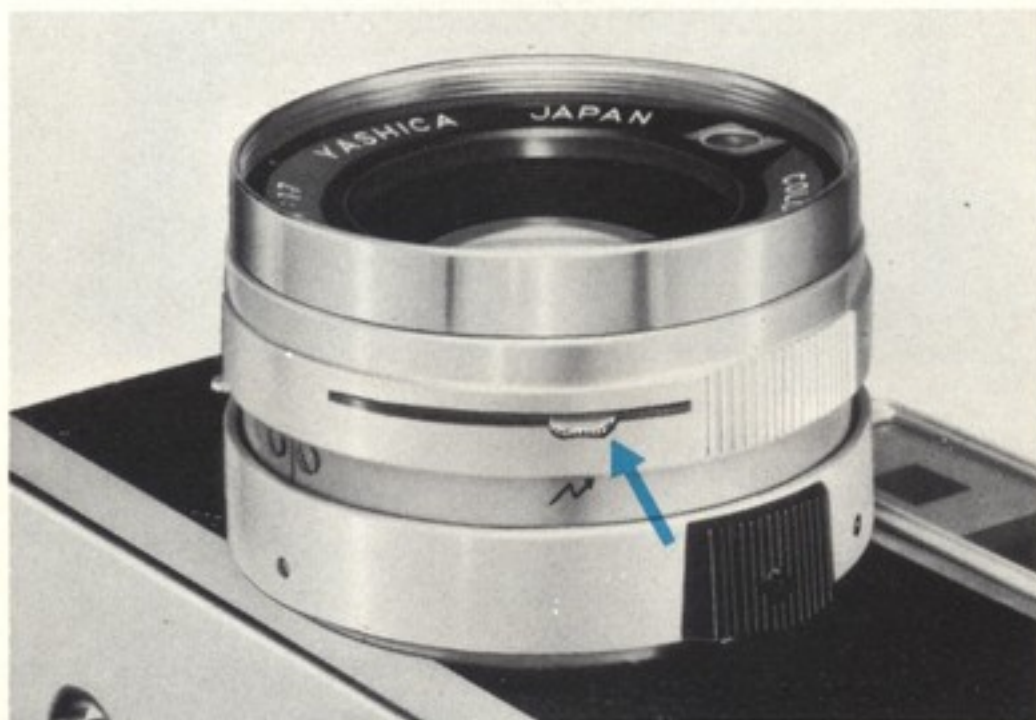
使用フィルムのASA感度数は、必ず指標と一致させクリック位置に置くようにしてください。

### 〈ASA感度とは〉

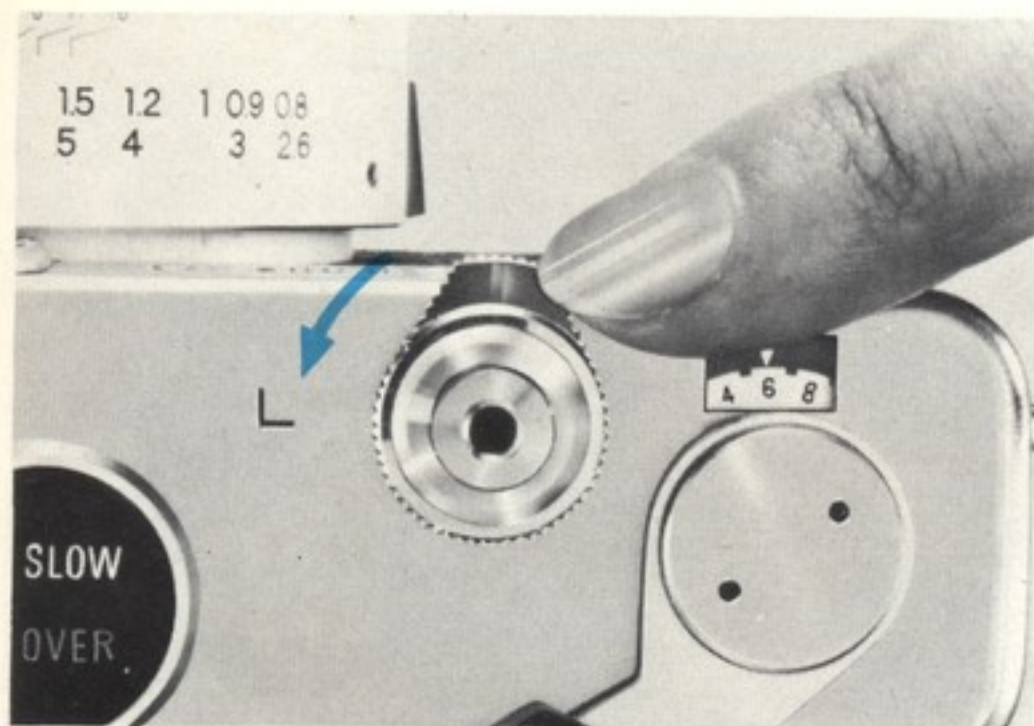
フィルムが光に感じる度合いを数字であらわしたものがASA感度で、フィルムの外箱か説明書に必ず表示されています。

### 〈ASA・DIN換算表〉

ASA	25	32	40	50	64	80	100	125	160	200	250	320	400	500	640	800	1000	1250	1600
DIN	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33

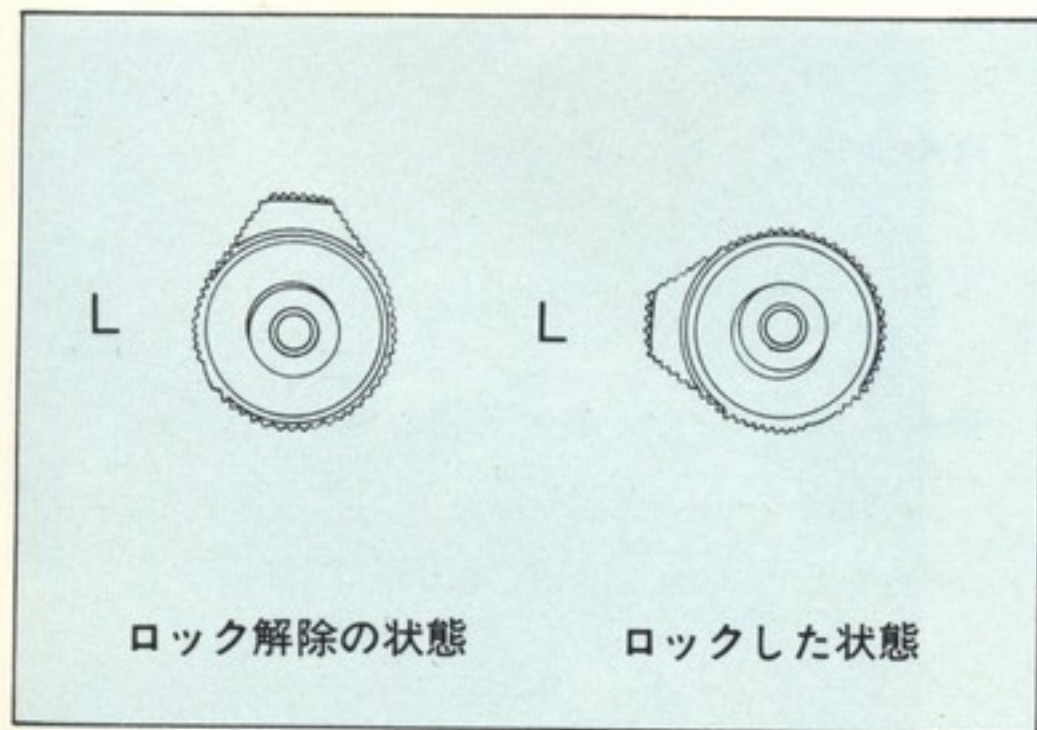


## ●シャッターロックリング



**1** ロックリングを回してLに合わせればロックされ、シャッターボタンを押しても動きません。

**2** 撮影をしないときや、カメラをしまっておくときは、必ずシャッターを切ってからロックしておく習慣をつけてください。  
ロックした状態では、電気回路に電流が流れず電池消費を防ぎます。



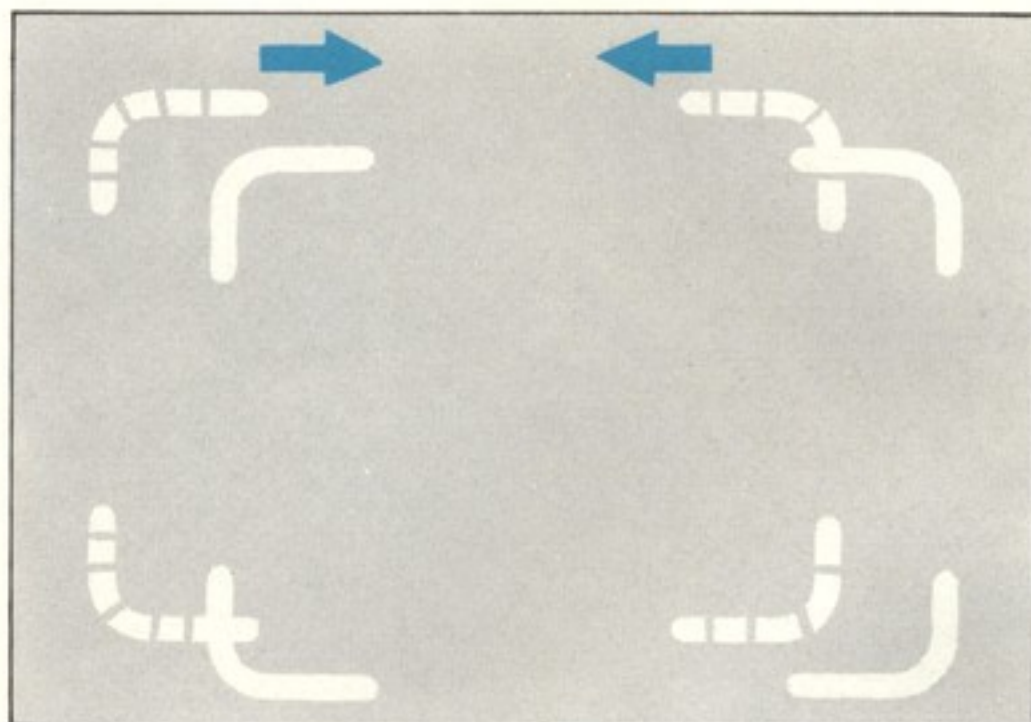
## ●ファインダー

**1** ファインダーをのぞいてみると、明るい光ったわくが見えます。

これを**ブライトフレーム**といいます。この内側に入る範囲が実際に写ります。

撮影するときは、このブライトフレーム内に入るように構図を決めてください。

**2** ブライトフレームは、距離調節に応じて自動的に移動しパララックス（視差）を修正しますので、フレームの中で構図を決めれば、写したいものが写っていないといった失敗はありません。



### ※➡露出オーバー警告

この赤ランプ（矢印）がつけば、露出オーバーの表示です（15頁参照）

### ※←スローシャッター警告

この黄ランプ（矢印）がつけば、スローシャッターの表示です（16頁参照）

## ● ピントの合わせ方



**1** ファインダーをのぞきながら、真中の二重像が一つに見えるように距離リングを回して合わせます。

**2** ファインダー中央部の明るい菱形の中で、像がずれていればピントが合っていないわけで、これが一つに見えるときにピントが合っています。



ピントが合っているとき

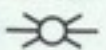
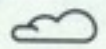
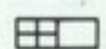


ピントが合っていないとき

## ● オート撮影のしかた

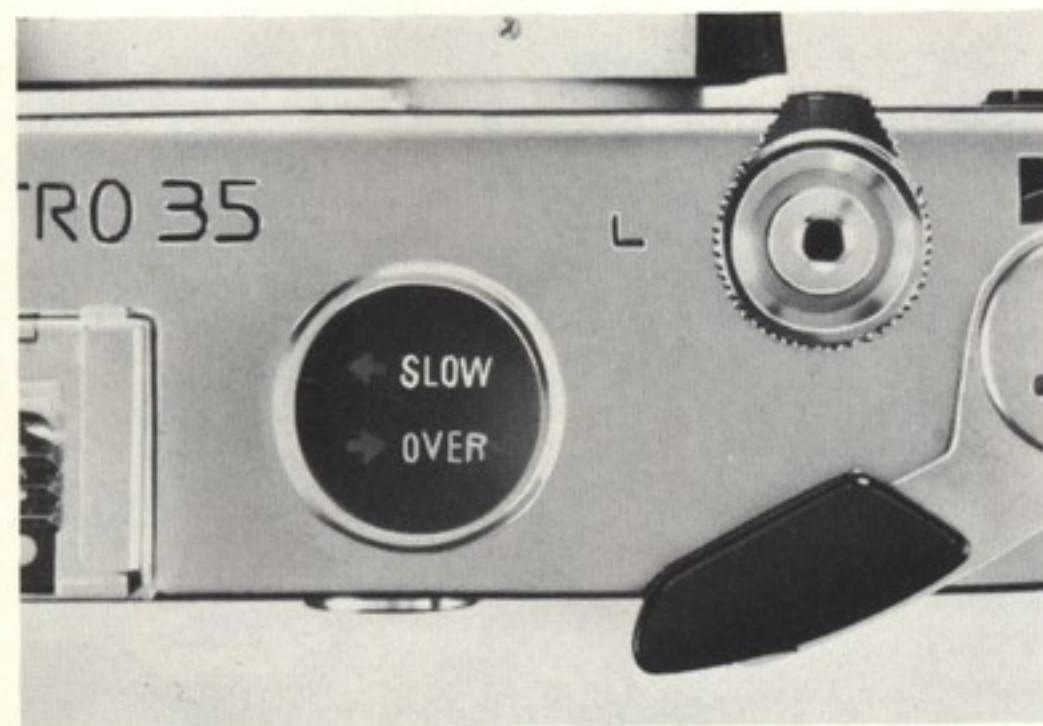
ヤシカエレクトロ35GLは、ローソク1本の明るさから快晴の雪景まで、いつでもどこでもきれいなカラー撮影が自動でできます。

- 1 絞りリングを回して、天候や明るさに応じたお天気マークを指標に合わせます。

	直射日光下の屋外撮影の場合	16・11・8
	曇天、または日陰の場合	5.6・4・2.8
	室内撮影、または夜の場合	2・1.7

- 2 フィルム巻上げレバーを巻くとフィルムが送られ、同時にカチッと音がして露出機構が始動する状態になります。





**3** ファインダーをのぞき、シャッターボタンを軽く押します。

露出チェックの赤ランプ(矢印)がつかなければ、そのままシャッターボタンを押し下げて撮影します。

#### 〈露出チェックランプ〉

露出チェックの赤・黄ランプ(矢印)は、ボディ上部にも点灯されます。

## ● 露出チェックのしかた

シャッターボタンは二段階に作用するようになっており、最初に軽く半分ぐらい押して露出チェック機構が働き、さらに深く押すとシャッターが切れるようになっています。

### 1 露出チェックランプがつかないときは、 そのまま撮影ができます

シャッターボタンを軽く押したとき、チェックランプの矢印がつかなければ、そのままシャッターボタンを静かに止まるまで押してください。 $\frac{1}{30}$ 秒より速いシャッター速度で撮影ができます。

### 2 →赤ランプ(矢印)がつくときは、 露出オーバーです

シャッターボタンを軽く押して→赤ランプ(矢印)がついたときは、露出オーバーの警告です。絞りリングを矢印方向にランプが消えるまで回して撮影してください。

それでも消えないときは、NDフィルターを使用してください。(NDフィルターとは光量を制限するフィルターです。)







**3** ←黄ランプ (矢印) がつくときは、  
手振れに注意して撮影します  
露出OKですが、シャッター速度が $\frac{1}{30}$ 秒より遅い  
スローシャッターで切れるため、カメラブレに注  
意し撮影してください。

### 〈黄ランプ(矢印)がついたときの撮影方法〉

**1** 絞りリングを矢印方向に回してランプが消え  
たところで撮影すると、 $\frac{1}{30}$ 秒より速いシャッ  
ター速度になりますから手持で撮影ができます。  
もし、この方法で消えないときは、下記の方法か、  
または専用ストロボの撮影をしてください。

**2** 三脚を使うか、カメラを台に固定して撮影し  
てください。カメラブレを防ぎ、シャープな  
写真が撮れます。



## ● カメラの構え方・撮影の基本

美しい写真を撮るためには、カメラをしっかり構えなければなりません。ピントの悪い写真の多くは、カメラブレが原因です。カメラに慣れるまで何回も練習してください。

シャッターボタンは、指を立てずに指の腹で静かに押し下げます。そのとき、指やケースなどが、レンズや受光部にかからないように注意してください。

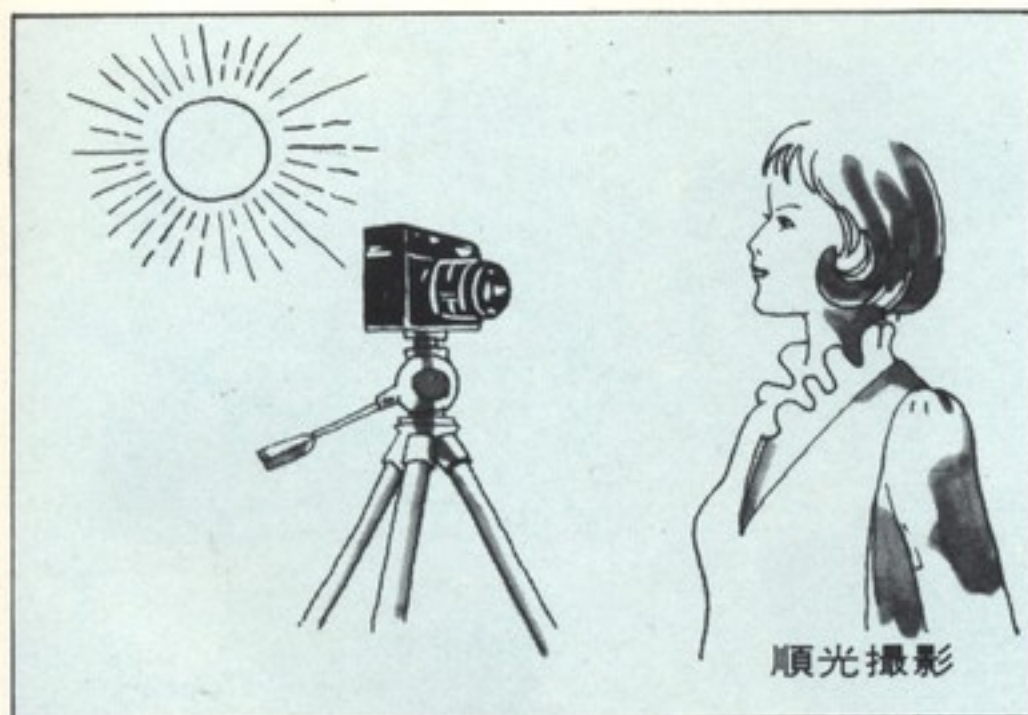


### 〈撮影の基本〉

光源の方角から撮影するのを順光撮影といいます。写すものに光が平均してあたり、色のバランスもよい美しい写真が撮れます。



## ● 逆光撮影・スポット撮影のテクニック



順光撮影が基本ですが、逆光撮影や強いスポットライトのあたっている舞台などの撮影には、普通のE E撮影のままですと、主要被写体が暗くなったり、明るくなりすぎたりします。

その場合、下記のテクニックをお使いください。

### 〈逆光撮影の場合〉

**1** 専用オートストロボ(ヤシカオートE S 220)を使用して、オートフラッシュ撮影をしてください。(21頁参照)

**2** ストロボをお持ちでない場合は、ASA感度をさげることで暗部を補正できます。

ASA100の場合、ASA50か25にします。

※逆光撮影のときはフードをご使用ください。

### 〈スポット撮影の場合〉

ASA感度がそのままですと、主要被写体が白っぽくなります。ASA感度をあげて補正します。

ASA100の場合、ASA200か400にします。

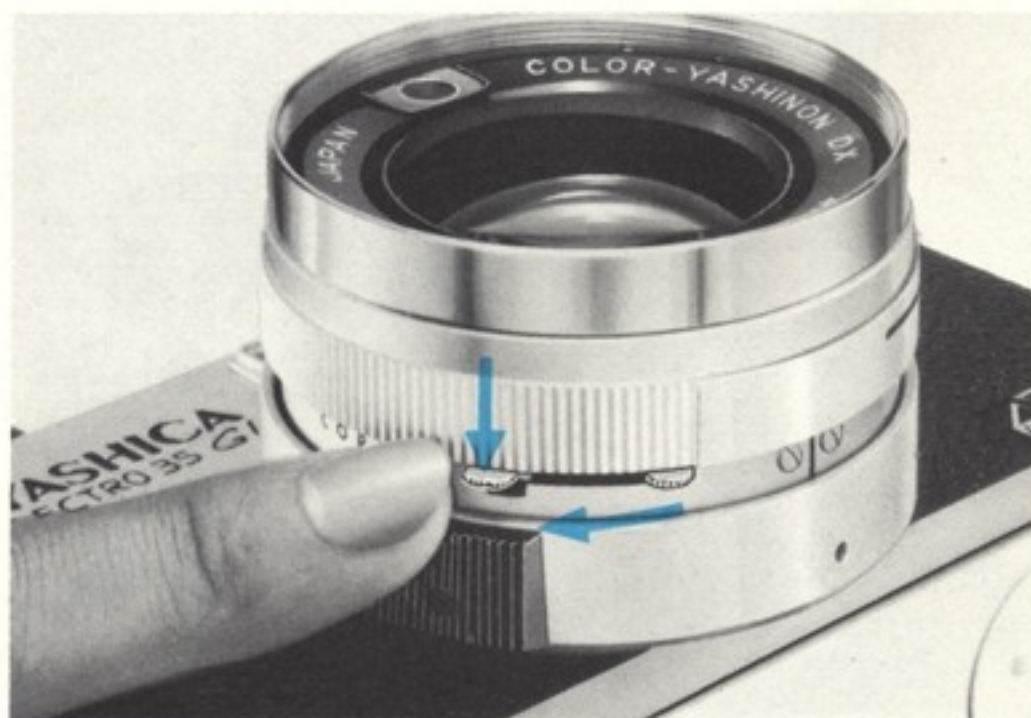
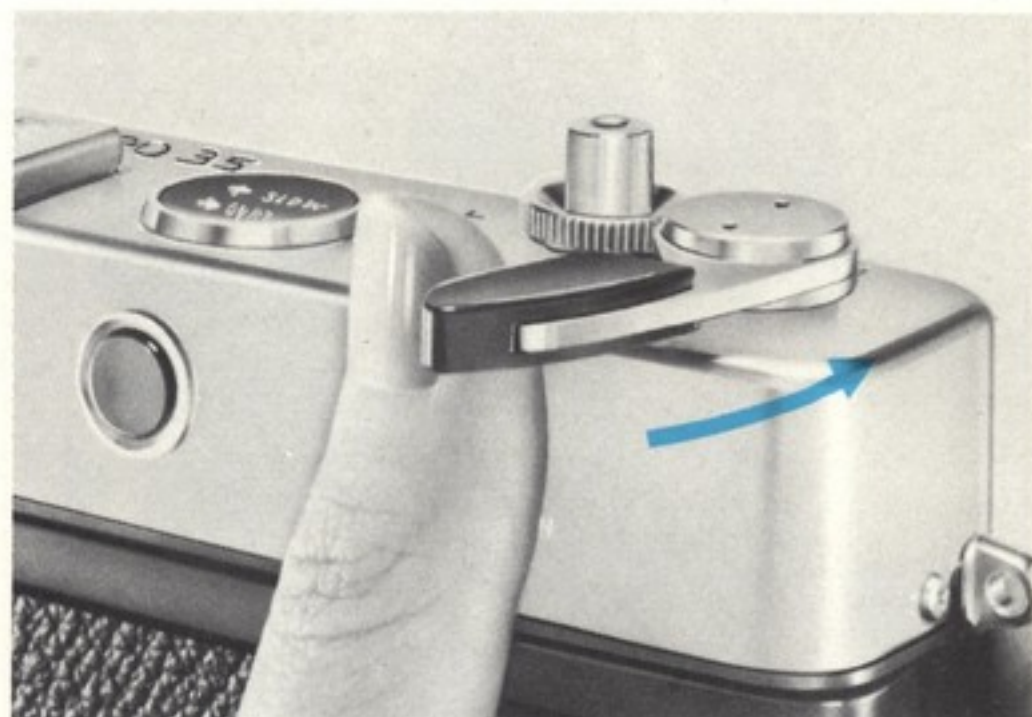
逆光撮影 2、スポット撮影のあとは、必ずASA感度を元に戻してください。

## ● セルフタイマーの使い方

記念撮影や旅行などで、自分も一緒に写したいときは、セルフタイマーをお使いください。

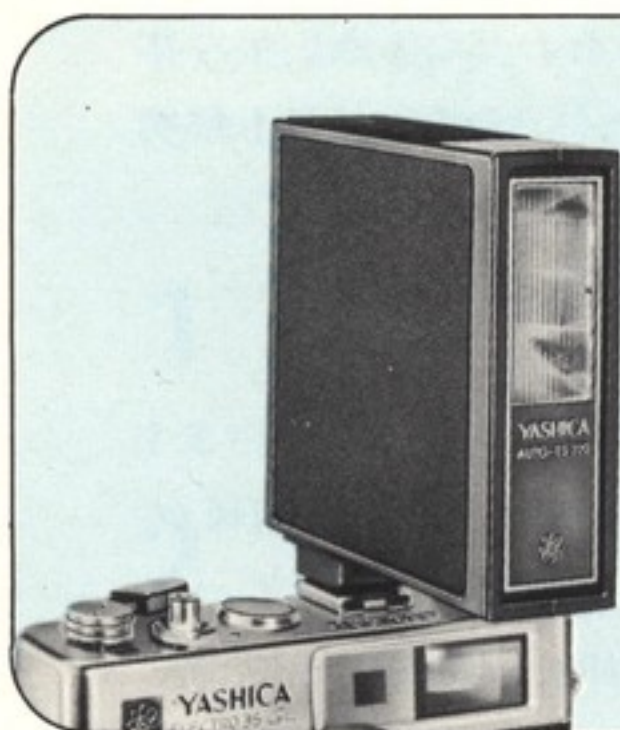
- 1** ピントを合わせ、フィルム巻上げレバーを巻上げます。
- 2** レンズ鏡胴部にあるセルフタイマーロックを下に押しながら、セルフタイマーレバーを上方に引きあげてセットします。
- 3** シャッターボタンを押すと、セルフタイマーレバーが作動し、約8秒後にシャッターが切れます。

セルフタイマーレバーは、セルフタイマーロックを押さないと動きません。





## ●専用オートストロボでのオートフラッシュ撮影のしかた〈基本操作〉



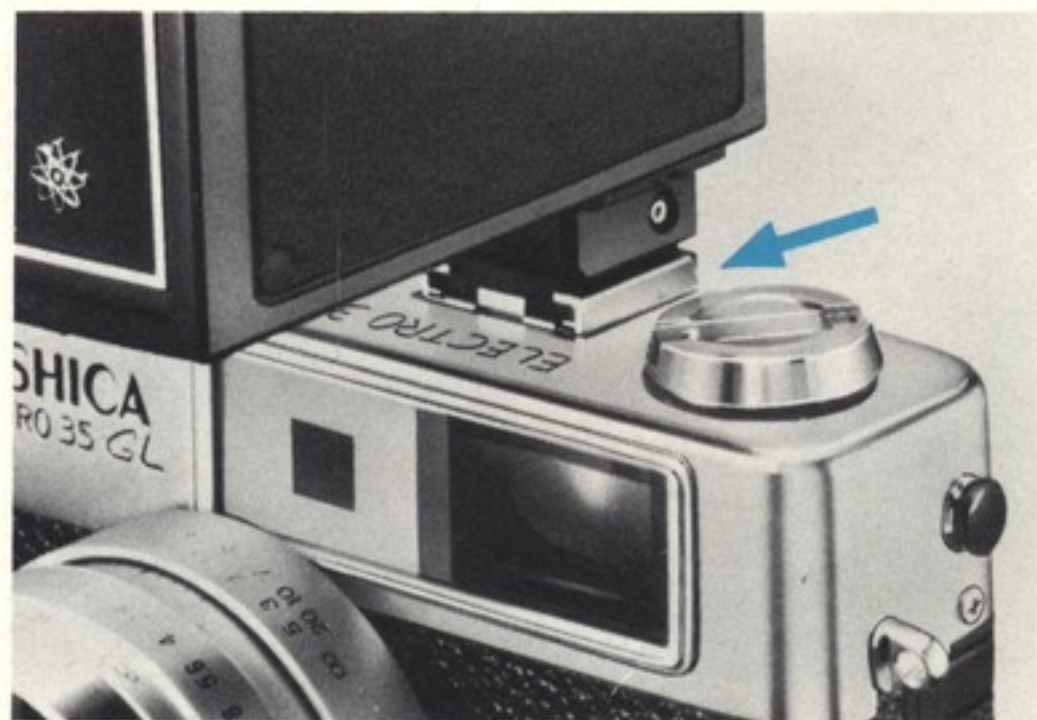
エレクトロ35GLは、専用オートストロボ（ヤシカオートES 220）使用により、簡単に素晴らしいオートフラッシュ撮影ができます。

暗い場所、室内ではもちろんダイライトシンクロ、逆光撮影の補助光などのほか、アクセサリを使用していろいろなフラッシュテクニックが使えます。

**1** ストロボを取付けます。

ストロボをアクセサリシュー（ダイレクトX接点）に差し込むだけで接続します。ストロボはシューの止まる位置まで確実に差し込んでください。シンクロコードは使用しないでください。

このとき、アクセサリシューからシューカバーをはずして取りつけ、シンクロターミナルに保護キャップをつけて使用してください。





**2** 絞りリングを回してASA感度レバー (☒) をレンズ鏡胴のエレクトロフラッシュマーク (☞) に合わせます。

※ASA80・100のフィルムを使用のときは、☞マーク (F4) に合わせればよいのです。

**3** ピントを合わせます。  
オートフラッシュ撮影の連動範囲は、5.5m以内です。

**4** シャッターボタンを押せば、ストロボが発光してオートフラッシュ撮影ができます。  
このとき、ストロボのパイロットランプの点灯を確認してからシャッターボタンを押してください。



## <デイトライトシンクロのしかた>

デイトライトシンクロとは、日中の明るい光線の撮影にフラッシュを同調発光して、逆光撮影のときなどの暗部の明るさを補う方法です。

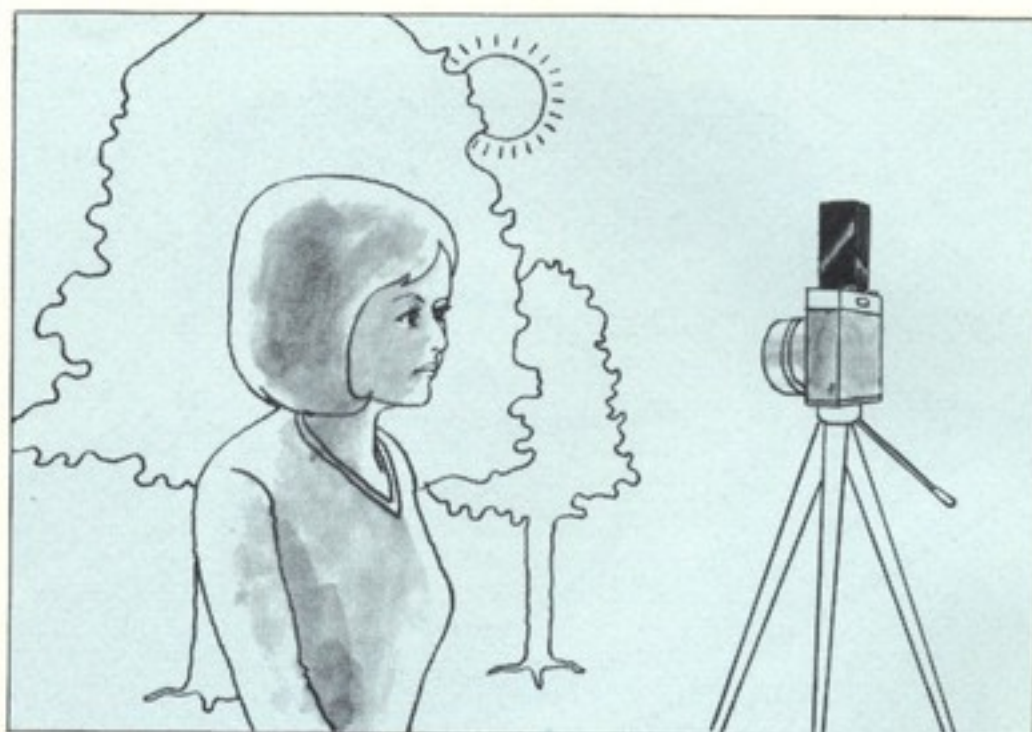
窓際の逆光撮影、木陰での撮影や帽子のひさしの影を消したいときなどにオート撮影のままですと、被写体が暗っぽくなります。

このとき、デイトライトシンクロをしますと背景と被写体が両方ともきれいに写ります。

使用方法は基本操作と同じですが、絞りのセットはオート撮影のときと同じ方法で合わせてください。このとき、下表を参考にして決めてください。たとえば、ASA 80・100フィルムを使用のとき

太陽光の下るとき	絞り F11
木陰での撮影のとき	絞り F5.6・F8
室内の逆光補正のとき	絞り F4・F5.6

このとき、赤ランプ（矢印）がついたときは、消えるまで絞り込んでください。





## ●オートフラッシュ撮影のテクニック編

オートフラッシュ撮影は、下記の連動距離範囲内で絞りを選んで撮影することもできます。

たとえば、ASA 100のフィルムを使用のとき

（絞りがF4のとき 5.5m以内  
絞りがF1.7（開放）のとき 2.3～13m

の範囲でオートフラッシュ撮影ができます。

ASA感度による絞り数(F)				連動距離範囲 (メートル)
25	50	100	200	
		1.7	2	(1.9) 2.3～13m
		2	2.8	(1.6) 2.0～11m
	2	2.8	4	(1.1) 1.4～8m
<b>2</b>	<b>2.8</b>	<b>4</b>	<b>5.6</b>	<b>(0.8) 1.0～5.5m</b>
2.8	4	5.6	8	0.8～4.0m
4	5.6	8	11	0.8～2.8m
5.6	8	11	16	0.8～2.0m
8	11	16		0.8～1.4m

カッコ内で撮影するときは、右記の条件の一つを選んで撮影すると、ソフトな写真や立体感のある写真を撮ることができます。

◎エレクトロ35GLのフラッシュ回路は、電子機構のFPS方式の採用により下記のような利点があります。

- 1) スローシャッター警告の黄ランプ（矢印）がついたときもストロボを発光させれば、シャッター速度が $\frac{1}{30}$ 秒より速くなり手振れの心配はありません。
- 2) オートフラッシュ撮影からオート撮影に切替えたいときは、ストロボのスイッチをOFFにするだけでよく、ストロボをはずす必要はありません。

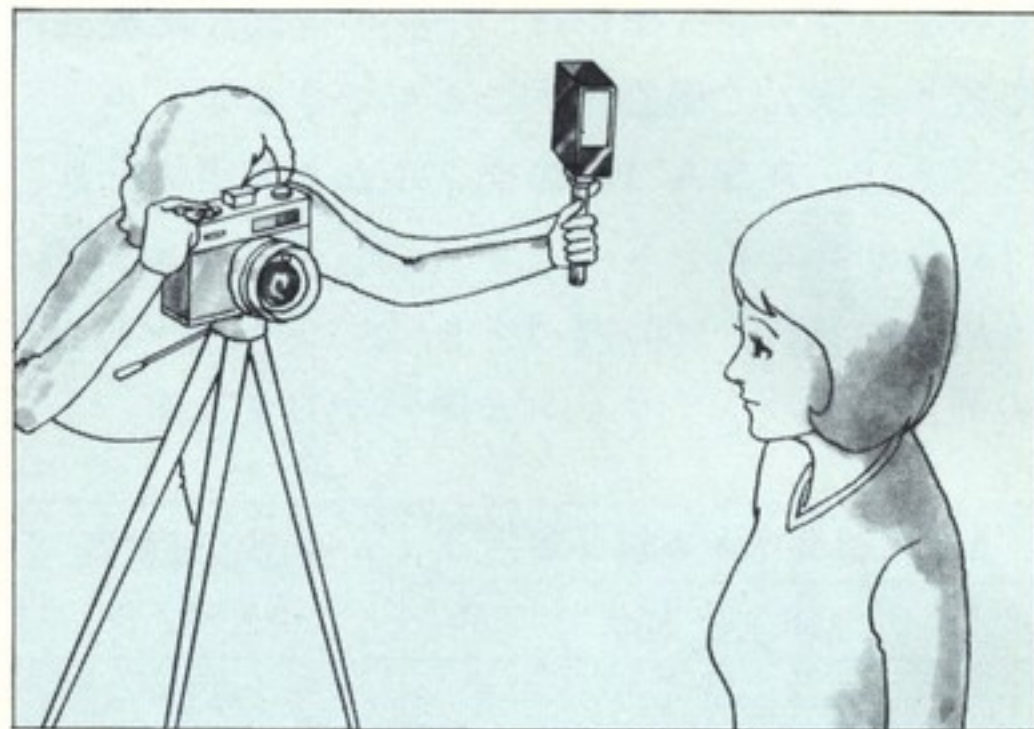
※FPS方式とは、ストロボやフラッシュバルブが発光するとき、フラッシュ回路に流れる電流を電子回路により検知して、 $\frac{1}{30}$ 秒以上のロングタイムをカットしてしまうヤシカ独自のオート・フラッシュ自動切替方式です。

- 1 ガーゼ、ハンカチなどを発光部にかぶせる
- 2 カメラからストロボを離す
- 3 絞りを1絞り絞り込む

**1** ストロボを移動してオートフラッシュ撮影ができます。

ストロボを自由に移動して角度も自由に選択して使う方法です。人物撮影をする場合など、ストロボを斜め上の角度から発光させると立体感のある写真が撮れます。

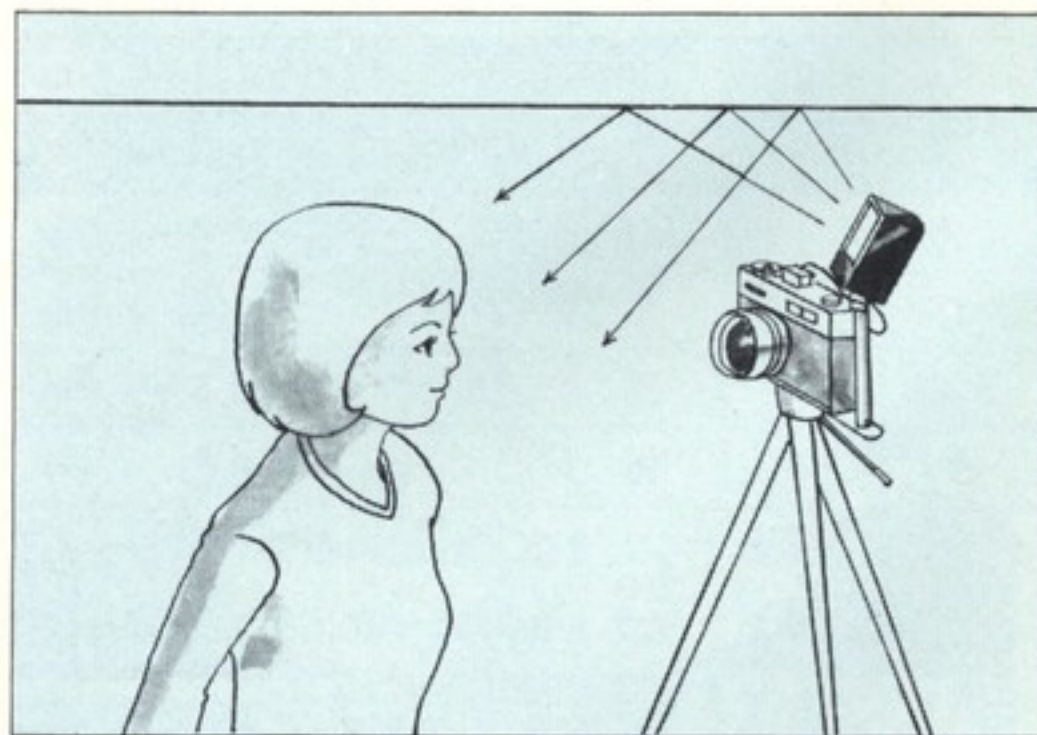
- 近接撮影のときストロボを遠く離したり、またすこし遠い被写体を撮りたいときにストロボだけを近づけてライティングするなどのテクニックも使えます。

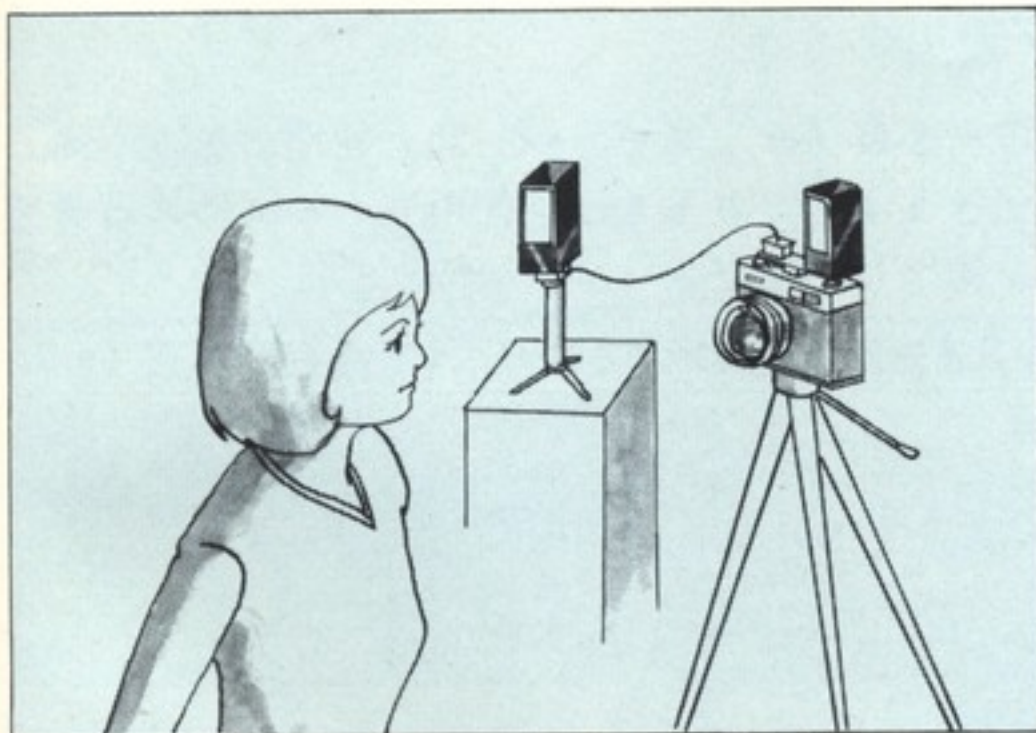


**2** バウンスフラッシュができます。

被写体に直接光をあてず、白色の天井、壁などへ向けて発光し、この反射光により被写体を照明する方法です。

ムードをこわさず立体感のある写真が撮れます。

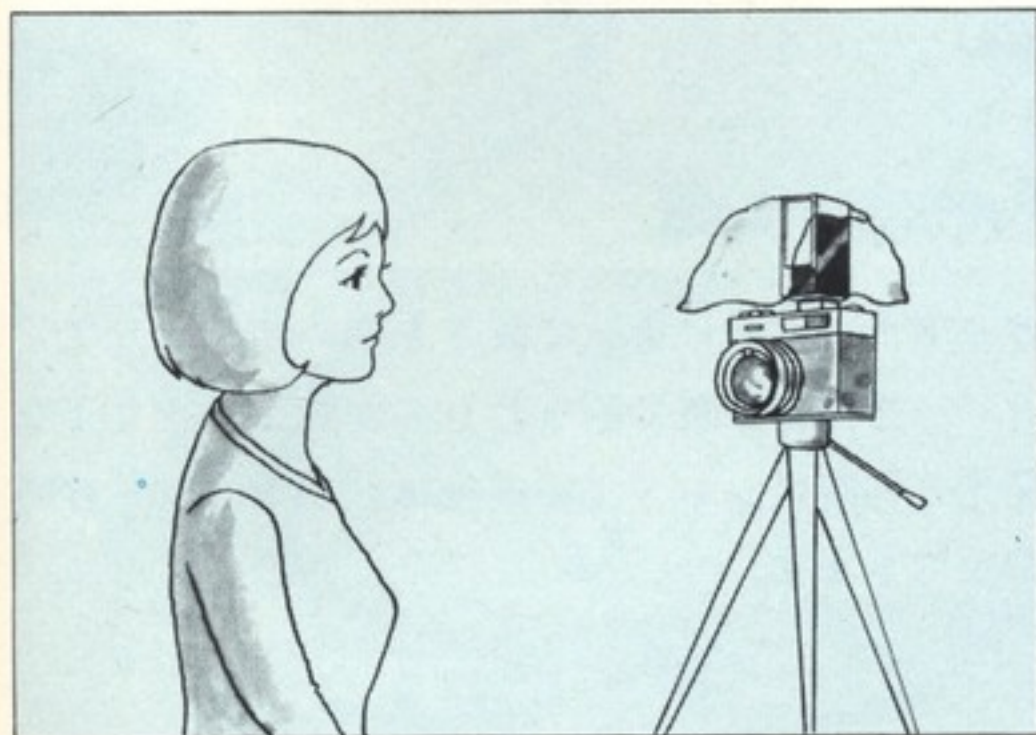




### 3 専用ストロボの2灯同時使用ができます。

専用ストロボを2個使用して、2個並べて発光させるとガイドナンバー31の強力ストロボとして使えます。また、高度なテクニックですが、1個を主光源、1個を補助光とする使いかたもでき、ライティングポジションの選択により立体的な効果を出すことができます。

専用アダプターの説明は、専用ストロボと各アダプターの使用書をお読みください。



### 4 ディフューズドフラッシュができます。

ハンカチ・ガーゼまたはトレーシングペーパーなどを発光部の前面にあてて写す方法です。ソフトな照明効果が得られます。

#### ◎超高速瞬間撮影ができます。

専用ストロボの閃光は1/20,000秒まで制御されますから、高速の回転体などを瞬間的にキャッチできます。周りを暗くして、いっばいに近づいて(0.8m)撮影するか、絞りを開いて撮影します。

## ●フラッシュバルブ・一般ストロボを使用するとき



### 〈フラッシュバルブ使用のとき〉

フラッシュバルブAG-3N（ガイドナンバー30）使用のときもオートフラッシュ撮影ができます。このときは、使用フィルムのASA感度により下記の絞りを使用してください。

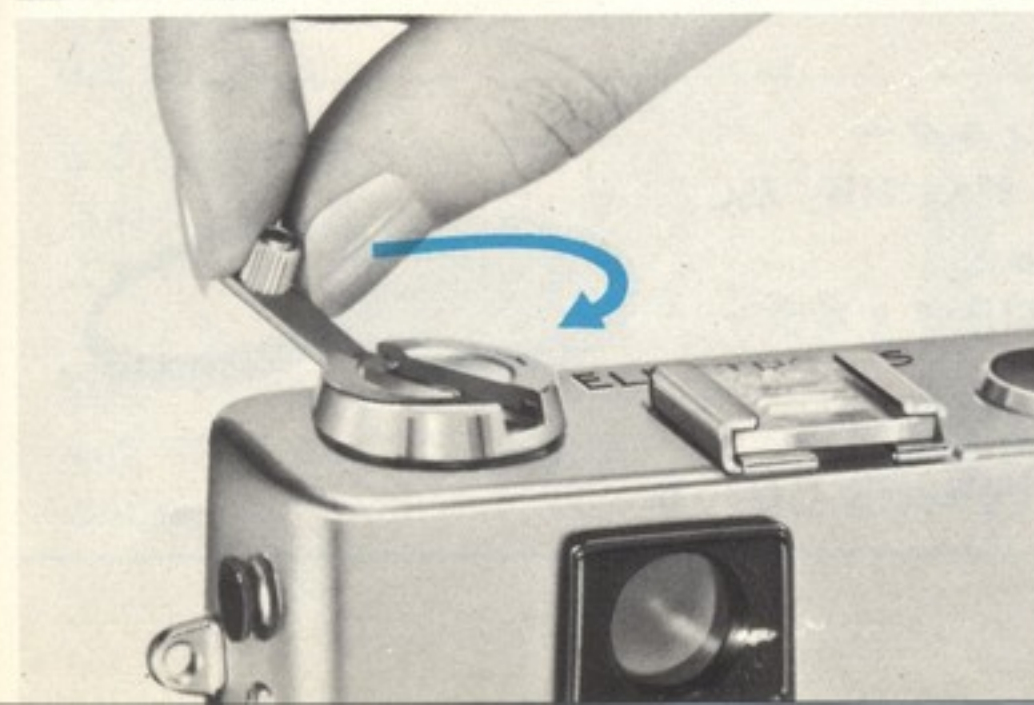
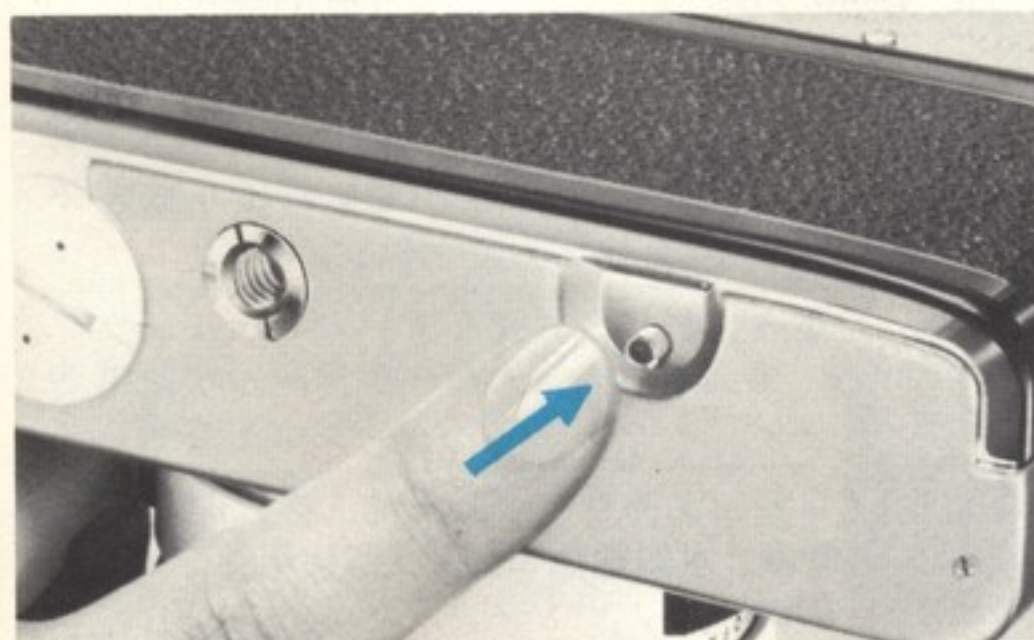
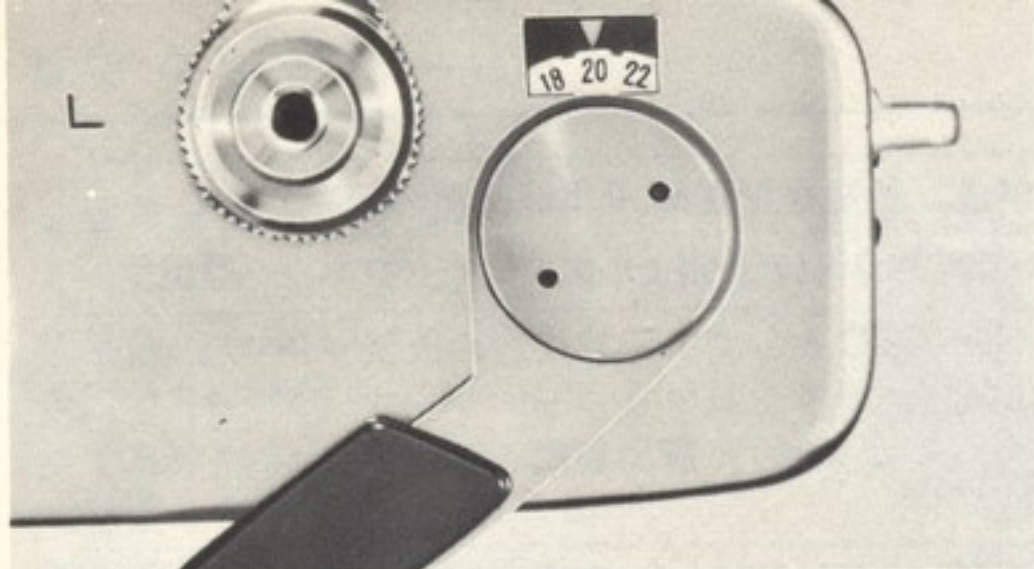
使用するフィルムのASA感度	使用する絞り	連動距離範囲 (m)
ASA 400	絞り F11	} 2 ~ 6 m
ASA 200	絞り F8	
ASA 100	絞り F5.6	
ASA 50	絞り F4	
ASA 25	絞り F2.8	

なお、その他のフラッシュバルブを使用のときは、ガイドナンバーによって絞りを決めて撮影してください。

### 〈一般のストロボを使用のとき〉

使用するストロボのガイドナンバーによって絞りを決めて撮影してください。（ガイドナンバーを撮影距離で割ったものが適正な絞りとなります）ストロボの発光と同時にシャッター速度は、フラッシュ秒時に自動的に切替り撮影ができます。





## ● フィルムの取り出し方

**1** フィルムカウンターが、フィルムの指定の枚数になったら、フィルムが終りになったのです。これ以上、無理に巻上げるとフィルムが切れて巻戻しができなくなります。

写し終ったフィルムは、必ずカメラの中でパトローネに巻戻してから取り出してください。

**2** 底部の巻戻しボタンを押してください。ボタンは自動方式ですから、巻戻し中押している必要はありません。

**3** 巻戻しノブのクランクを起して、矢印方向に回します。フィルムがスプールからはずれるとき抵抗を感じますが、そのまま巻きつづけてください。

抵抗がなくなったら、裏蓋を開けてフィルムをカメラから取り出します。

撮影中にフィルムが巻けなくなったときは、必ず巻戻しボタンを押して巻戻してください。無理に巻上げるとフィルムが切れます。

●性能表 ●フィルター

レ ン ズ	カラーヤシノンDX 40mm F1.7 4群6枚構成、最短撮影距離 0.8m、画角56°
シャッター	コバル製電子シャッター(LT~ $\frac{1}{500}$ 秒)、高性能IC1個、半導体4石使用セルフタイマー付(ロック機構付)
測光方式	電子シャッターとの組合せによる絞り優先式、SBCトップアイ方式、お天気マーク3点付絞り目盛(F1.7~F16)、ASA目盛25~1,600、エレクトロフラッシュマーク(M)付、露出連動範囲EV0(F1.7・約4秒)~EV17(F16・ $\frac{1}{500}$ 秒)、露出表示 赤・黄ランプ(矢印)ファインダー内・ボディ上部表示
ファインダー	採光式ブライトフレーム付、パララックス自動補正、倍率0.72倍、赤・黄ランプ(矢印)露出表示
ピント合わせ	直進ヘリコイド式、二重像合致式距離調節 被写界深度目盛付、距離目盛 0.8~ $\infty$ m 2.6~ $\infty$ ft
フィルム送り	レバー式1作動巻上げ、セルフコッキング、ヤシカイージーロードシステム、自動空送り装置付(カウンター連動)、自動復元 順算式フィルムカウンター、クランク式フィルム巻戻し
オートフラッシュ	ヤシカエレクトロオートフラッシュシステム機構付、X接点、FPS方式(オート・フラッシュ電子切替え)、距離連動範囲 専用ストロボ使用のとき 5.5m以内、AG-3Nバルブ使用のとき、2~6m
そ の 他	アクセサリシュー(ダイレクトX接点・調光端子付)、シャッターロック装置付、裏蓋開閉式フィルムカウンター窓照明兼用バッテリーチェッカー、電源、水銀電池 5.6V 1個使用、フィルター口径 ネジ込み 55mm、フード口径 カブセ 57mm
寸法・重量	136×79×68mm 700g

★フィルター 55ミリ(ネジ込み)専用フィルターを使用してください。フィルターを使用しても、露出倍数を考える必要はありません。

カラー用フィルター

1A、80B、82A、81B、85C、FLY-D、偏光

カラー・黒白用フィルター

ND<sub>4</sub>、ND<sub>2</sub>

黒白用フィルター

UV、Y<sub>1</sub>、Y<sub>2</sub>、O<sub>2</sub>、R<sub>1</sub>、G<sub>1</sub>、B



## ● アクセサリー

### ★専用オートストロボ

#### オートES 220

エレクトロ35GLの性能をフルにいかす専用オートストロボです。GLとの組み合わせで完璧なオートフラッシュ撮影ができます。

### ★ソフトフード

57ミリ（カブセ）フードを使用してください。反射光の多いところでは、不要な光線がレンズに入らないようにフードをつけた方が効果的です。ゴム製のフードでこれをカメラにつけたままでレンズキャップが使えます。キャップをつけるときは、フードを写真のように折り返してからカブせてください。

### ★グリップ三脚ST-7

従来の三脚と異なり、胸や壁にあててカメラを固定することにより、スローシャッター撮影のブレを防ぎます。小型・軽量で、しかも安定性は抜群です。



## ● カメラの手入れ

● カメラは暑い場所にながく放置しますと、熱のためフィルムの感度、電池、カメラの電気系統に影響を及ぼし、正しい露出が得られないことがあります。暑い場所にながく放置しないよう注意してください。

万一カメラが熱くなったときは、気温程度にさがるのを待ってから使用してください。

● レンズはハンカチなどで拭かず、レンズブラシでかるくはらってください。

● フラッシュ撮影をしないときはシューカバーをアクセサリーシューに、ターミナル用保護キャップをシンクローターミナルに差し込んでおいてください。

● カメラの狂う原因は、ショック、湿気、塩気などがあります。乱暴に扱わないように、手入れは十分にしておいて末長くご愛用ください。

● アクセサリーシューにストロボ・フラッシュガンをつけないときは、必ずシューカバー（感電防止用）をシューに差し込んで使用してください。

●ヤシカカメラに関するご質問及び修理については、下記へお問い合わせ下さい。

Y 株式会社 <b>ヤシカ</b>	東京都渋谷区神宮前 6-27-8	〒150	TEL.03-400-1411代表
岡谷工場	長野県岡谷市長地 2800	〒394	TEL.02662-7-2131代表
相模原工場	神奈川県相模原市上鶴間 3648	〒228	TEL.0427-43-2211代表

**ヤシカ商事株式会社・サービスステーション**

東京営業所	東京都渋谷区神宮前 6-27-8	〒150	TEL.03-400-1411代表
大阪営業所	大阪市西区北堀江通 1-46 山田ビル	〒550	TEL.06-532-2251
名古屋営業所	名古屋市中区錦 3-12-10	〒460	TEL.052-961-0656
福岡営業所	福岡市博多区中呉服町2-7 博多村山ビル	〒812	TEL.092-28-5749
札幌営業所	札幌市中央区北四条西5-1 林業会館ビル	〒060	TEL.011-241-5866
仙台営業所	仙台市大町 2-14-23 橋ビル	〒980	TEL.0222-22-7528
広島営業所	広島市大手町 3-5-3 野村ビル	〒730	TEL.0822-43-7437
横浜営業所	横浜市中区万代町 1-2-3 座間ビル	〒232	TEL.045-641-3333
新潟出張所	新潟市蒲原町 3-28 明石ショッピングセンター内	〒950	TEL.0252-44-3866
金沢出張所	金沢市春日町 8-12 永原ビル	〒920	TEL.0762-52-5777
高松出張所	高松市末広町 1-2	〒760	TEL.0878-51-2495
岡山出張所	岡山市富田町 2-9-16	〒700	TEL.0862-22-8204
大宮出張所	大宮市東町 2-291 グリーンマンション	〒330	TEL.0486-43-0566
静岡出張所	静岡市駿河町 5-6 寿ビル	〒420	TEL.0542-53-7822